

宇田雄一「古典物理学」

25 $\{h_{22}(f; S', I', J') \mid f \in F_{22} \text{ and } (S' \text{ は時空座標系だ}) \text{ and } (I' \text{ は質量座標系だ}) \text{ and } (J' \text{ は電荷座標系だ})\}$ の元を、

質点の分布または質点の分布の歴史と呼ぶこととする。

26 $\{h_3(f; S', U') \mid f \in F_3 \text{ and } (S' \text{ は時空座標系だ}) \text{ and } (U' \text{ は電磁座標系だ})\}$ の元を、電磁場の歴史または単に電磁場と呼ぶこととする。

27 $\{h_{24}(f; S, U, I, J) \mid f \in F_{24}\}$ の元を、自然の可変的な部分の歴史と呼ぶこととする。28空欄。29空欄。30空欄。

31 自然の可変的な部分の歴史全体の集合を \mathcal{H} と書くこととする。

32 \mathcal{N} を $\mathcal{N} = N_{24}$ で定義する。33 \mathcal{F} を $\mathcal{F} = F_{24}$ で定義する。34 $\mathcal{F} \subset \mathbb{R}(\mathcal{N})$

35 \mathcal{M} を次式で定義する。 $\mathcal{M} \in \mathcal{H}(\mathcal{F}) \text{ and } [\forall f \in \mathcal{F}; \mathcal{M}(f) = h_{24}(f; S, U, I, J)]$

36 空欄。37 空欄。38 $\forall f \in \mathcal{F}; [e_{25}(f) \text{ を } \mathcal{L}(f) \text{ とも書くこととする}]$ 39 空欄。

40 $\forall f \in \mathcal{F}; [\mathcal{M}(f) \text{ が可能だ}] \Leftrightarrow \mathcal{L}(f)$ 41 空欄。

この文章は22 24 25 27 32 33 34 35 38の部分においてのみ $T_{15}(S, U, I, J)$ と異なる。

まとめ

$T_1(P; Q_1, \dots, Q_n; Z; S, U, I, J)$ と $T_2(P_1, \dots, P_n; E; S, U, I, J)$ は局所性を持つ擬場形式の理論だが、場形式の理論ではない。 $T_3(Q_1, \dots, Q_n; Y; S, U, J)$ は局所性を持つ場形式の理論だ。 $T_4(P_1, \dots, P_n; S, U, I, J)$ と $T_5(P_1, \dots, P_n; S, U, I, J)$ は擬場形式の理論ではない。 $T_{05}(P_1, \dots, P_n; S, U, I, J)$ と $T_{25}(S, U, I, J)$ は局所性を持つ場形式の理論だが自然のマッハ模型ではない。 $T_{22}(E; S, U, I, J)$ と $T_{24}(S, U, I, J)$ と $T_{02}(P_1, \dots, P_n; E; S, U, I, J)$ と $T_{04}(P_1, \dots, P_n; S, U, I, J)$ は場形式の理論だが局所性を持たず、自然のマッハ模型にもなっていない。これらが局所性を持たないのは万有引力のせいだ。恣意文と自明文と経験文の番号は、§ 2-1-2におけるのと全く同じだ。

$\forall m \in \{2, 4, 5\}; T_m$ の基礎未定義語と T_{0m} の基礎未定義語は全く同じだ。

また、 $\forall m \in \{2, 4, 5\}; T_{1m}$ の基礎未定義語と T_{2m} の基礎未定義語は全く同じだ。